

令和4年度調査研究委員会 実践報告シート

学校名（ 八乙女中学校 ） 名前（ 大松澤聖雄 ）

〔実践報告Ⅰ〕「フレッシュ先生校内研修」において工夫した取組

・校内研修の指導教員の割り当ての工夫 ～いつでも どこでも 研修～

フレッシュ1年次教員は在籍しておらず、2～5年次教員が9名在籍している。中規模校という現状から放課後の時間がなかなか取れず、校内指導員が学年所属や校務分掌を考慮しながら、月日を決めずできるときに研修を行ったり、諸会議の中で研修を行ったりする方向で取り組んでいる。ただし、「学校教育目標と組織運営、校務遂行の参画」（校長）や全体研修の必要性の高い研修については、全員が同日に研修できるように調整している。

・校内研修の形態の工夫 ～諸会議の中で行う校内研修～

①学年会の中で（2学年）

学年会の中で、道徳の授業の内容や進め方と合わせて、フレッシュ**3年次教員が講師**となり、Chromebook を活用して情報を共有する方法や、授業の中での活用方法について議論し実施している。ロイロノートやジャムボードを活用することで考えを共有できたり、深められたり、議論するために効果的であった。さらに他のフレッシュ教員から、シンキングツールの使用や教室に掲示しようという提案がなされた。ミドルの教員からは、学級掲示や学級通信に掲載することで、「授業以外の場面で振り返らせることができ、実践意欲につながるのではないか。」「家庭との情報共有ができる。」との意見も加わって研修が深まった。



②授業づくり訪問との連携

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を目指し、各教科において1人1台端末の効果的活用を進めている。

教科部会において、ICTの具体的な使用や実践の報告などが行われた。本校のフレッシュ教員は、ICTの活用に馴染んでいる傾向で、それぞれ独自の使い方を紹介し合えた。ロイロノートとClassroomの使い分けについて、資料提示の時はClassroom、記入させたい時はロイロノート、レポート系はGoogleドキュメントやスライドの活用が効果的などと意見が交わされた。使い分けが難しいとの意見が聞かれ、研修の必要性が生じ、ミドルの教員が講師となって職員会議の時間を利用して研修を行った。フレッシュ3年次教員から「Google for Educationやロイロノートの研修を通して、授業での活用方法を学ぶことができたため、普段の授業の効率が昨年度以前に比べて上がったように感じました。」との感想が聞かれた。



③職員会議を活用した校内研修

フレッシュ3年次教員が参加した研修内容について、職員会議において伝講する場面を持った。全体研修ともなることを全体で確認して実施した。フレッシュ先生から「学びっ放して終わってしまっていたが、伝講したことでもう一度振り返り、研修内容をさらに深められた。」「自分の学びを改めて説明しようとまとめ直す中で、講話に対する理解が深まった。分からないままになっていた点が明確になり、講話の受け方を見直すきっかけになった。」という感想と、ベテランからは「教育の情報を知ることができ研修の機会になった。」という声が聞かれた。

①タテ割り活動の実施

各学年が5クラスという現状から、「合唱コンクール」「紺青祭(文化祭)」「体育祭」の三大大行事と称している各行事において、タテ割りによる異年齢集団での活動への取組、活動を通して生まれる先輩と後輩の生徒間交流、教員間の縦のつながりなどの視点で研修が深められている。

<文化祭での交流>

全校体制でのモザイクアート作成に向けて、組ごとに異年齢集団をつくり、作成計画づくり・作成を進める中での交流活動が行われた。数年かけて活動が続けてきたことで、生徒側にもタテ割り活動に対する意識が芽生え始めてきている。タテ割り活動をするにあたり、後輩を引っ張っていかなければならないという自覚が今年の3年生には身に付いている。それはこれまで2年間の先輩の姿を見てきたからであり、数年かけて取り組んだ一つの成果であると思う。

<体育祭での交流>

リレーや縄跳び競技において、朝練習や昼休みを利用して割り当てられた場所で活動した。先輩が後輩に声掛けを行ったり、励ましたりする場面が見られた。タテ割りでのリレー競技も行われ、クラスごと先輩と後輩が互いに応援し合い大いに盛り上がりを見せた。学校行事に組み込んでいく中で、クラスごとに活動内容に差異が出たと、ミドル層からの指摘があった。

②タテ割りの活動を通して

タテ割りの活動を通して、フレッシュ先生からは、「先生方の動きを見て、いろいろな選択肢を持ち合わせて生徒と関わっていく必要を感じた。」「他学年の先生方の生徒たちへの関わり方や行事への取り組みませ方を見る機会となり自身の教育活動の視野を広げることができた。」「様々な先生と関わることで、自分にはないアイデア等を共有して指導に当たることができた。」など研修を深められたという感想が聞かれた。一方、課題として、「行きあたりばったりでは教育的効果も薄れてしまうので、計画を立てて組織的・計画的に行うことが大事」と、ミドル層からの意見が聞かれた。来年度に生かしていきたいと思う。

③新たな効果

タテ割りを行う中で、新たに以下のような意見が聞かれるようになった。フレッシュ先生からは、「交流場面は行事だけに限らないと感じた。」「1年生の生徒からは「定期考査の学習の仕方を先輩に聞こう。」行事以外での交流が見られ、新たな効果であると感じられた。その後、波及するかのようになり、生徒会執行部の後期スローガンには、「壁のない新たな八乙女を」という言葉が現れ、12月には、いじめ防止「きずな」アクションにおいて、タテ割りによる“コミュニケーションが取れるゲーム”が企画され、あまり交流のない同級生や先輩・後輩と関わり合う機会を通して、互いの関係性を深めることができた。その際、より効果的に生徒を動かすための働き掛けや声掛けのあり方についてなど、教師間で互いに研修する機会ともなった。



〔その他の実践〕

フレッシュの先生より（振り返りシート）

- ・自分の教育への想いを、生徒や保護者に伝えることのできる方法について学びたい。
 - ・より良い教科指導の手法、評価に関わる適切な材料の集め方、学級づくり、低学力層で無気力な生徒に対する関わり方、ICT活用について知りたい。
- こういう意見を吸い上げ、来年度の研修につなげていきたい。

